

## (f)令和5年度 通信教育実施計画

学習計画表（レポート締め切り一覧）

1年次生

科目	1	2	3	4	5	6	7	8	9
現代の国語	5月24日	6月14日	7月12日	11月1日	11月27日	12月25日			
言語文化	5月24日	6月16日	7月14日	10月26日	11月21日	12月8日			
地理総合	5月29日	6月23日	7月7日	11月1日	12月6日	12月20日			
公共	5月24日	6月21日	7月13日	10月30日	12月4日	12月18日			
数学Ⅰ	5月15日	5月31日	6月19日	7月5日	7月14日	11月7日	11月24日	12月11日	12月22日
物理基礎	5月11日	6月1日	6月29日	10月31日	11月21日	12月19日			
体育	5月22日	7月3日	12月11日						
保健	6月5日	11月4日	11月20日						
音楽Ⅰ	5月15日	6月5日	7月3日	11月2日	11月29日	12月22日			
英CⅠ	5月15日	5月29日	6月26日	7月10日	11月2日	11月6日	11月24日	12月15日	12月22日
論表Ⅰ	5月19日	6月9日	7月10日	11月2日	11月17日	12月18日			
家庭基礎	6月1日	7月13日	11月27日	12月25日					
総合探究	7月7日								

2年次生

科目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
論理国語	4月27日	5月12日	5月25日	6月2日	6月15日	7月1日	10月27日	11月6日	11月4日	12月4日	12月12日	12月19日
歴史総合	5月19日	6月12日	7月7日	11月1日	11月24日	12月26日						
倫理	5月25日	6月21日	7月5日	10月30日	11月27日	12月19日						
数学A	4月30日	6月7日	7月3日	11月1日	11月24日	12月26日						
化学基礎	5月18日	6月15日	7月12日	10月30日	11月21日	12月18日						
体育	6月7日	12月4日										
保健	6月12日	11月16日	12月26日									
英CⅡ	4月30日	5月22日	6月5日	6月9日	7月3日	7月10日	11月2日	11月9日	11月24日	12月1日	12月8日	12月21日
論表Ⅱ	5月15日	6月5日	7月10日	10月20日	11月20日	12月15日						
総合探究	7月6日											
ICT	6月30日	12月13日										
保育	6月30日	12月7日										
看護	6月30日	12月22日										
心理	6月30日	12月20日										

スクーリング並びに定期考査予定表

令和5年度 スクーリング・考査等日程							
		前期A日程	前期B日程	前期補講	後期A日程	後期B日程	後期補講
スクーリング	1年次	7月25日～31日	8月23日～29日	9月11日～27日 土日祝除く	1月22日～27日	2月14日～20日	3月4日～14日 土日を除く
	2年次	7月13日～20日	8月15日～21日		1月11日～17日	1月31日～2月6日	
		前期考査A日程	前期考査B日程	前期追再試	後期考査A日程	後期考査B日程	後期追再試
考査	1年次	8月1日～2日	8月30日～31日	9月11日～27日 土日祝除く	1月29日～30日	2月21日～22日	3月4日～14日 土日を除く
	2年次	7月20日～21日	8月21日～22日		1月17日～19日	2月6日～8日	

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
国語	現代の国語	1 年次	必修	2	6 回	2 時間	
科目の概要	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。						
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。</li> <li>2. 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</li> <li>3. 言葉がもつ価値への認識を深めると共に、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ol>						
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験範囲
年間学習計画・学習のねらい	自己を見つめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせる</li> <li>・筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分にあてはめ考える</li> </ul>			1	1	前期
	他者に出会う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見の根拠を的確に理解し、筆者の主張をつかむ</li> <li>・評論の書かれ方を理解し、読み方を知る</li> <li>・要旨をまとめ、文章の要点を把握する</li> <li>・情報を集めて検討し、構成を工夫して意見文を書く</li> </ul>			2		
	言葉と生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や相手に合った分かりやすい説明をする</li> <li>・複数の文章を読み比べ、自分の考えを深める</li> <li>・図表や画像から必要な情報を読み取る</li> </ul>			3		
	視野を広げる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提示された新しい視点について理解する</li> <li>・具体例の役割を押さえて読み、筆者の価値観と主張をつかむ</li> <li>・話し合いの進め方を工夫し、考えを深める</li> </ul>			4	2	後期
	社会と関わる 言葉と生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る</li> <li>・自然や社会の中で生きる意味を考えながら働く筆者の思いに触れ、働くということについて考える</li> <li>・読書を通じて将来の職業や働き方を考える</li> <li>・相手意識を持って言葉を選ぶ</li> </ul>			5		
	世界とつながる 未来に目を向ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する</li> <li>・人間の心・意識について、体験を踏まえつつ考察する文章を読み、人間への認識を深める</li> <li>・「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる</li> </ul>			6		
評価方法		試験の得点：60%    RP・SC の取組：各 20%					
		RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと					
		SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること					
		試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること					

単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること
	SC：所定の時間出席すること
	試験：前・後期試験の両方に合格すること
使用教科書	教科書：東京書籍「新編現代の国語」（現国 701）
その他の事項	RP を作成する際には辞書など様々なツールを使用し、言葉の適切な使い方と、正しい漢字を書くことを心がけましょう。記述式問題では、読み手に伝わるよう表現や構成に気を付けましょう。

RP：レポート      SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
国語	言語文化	1 年次	必修	2	6 回	2 時間	
科目の概要	言語文化に対する関心と理解を深めるため、現代文の他にも古文・漢文の基礎を学び、古典の世界に親しむ。						
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けると共に、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</li> <li>論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</li> <li>言葉がもつ価値への認識を深めると共に、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ol>						
学習内容	学習目標				RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	現代文編 随筆 小説	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本独特の桜に対する感性について理解を深める</li> <li>登場人物の心情とその変化を読み取る</li> <li>人間関係の在り方について考える</li> </ul>			1	1	前期
	古文編 古文入門 随筆	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章のリズムや調子の違いを感じ取る</li> <li>歴史的仮名遣いについて理解し、説話のおもしろさを読み取る</li> <li>文語の活用について理解し、叙述を基に人物像を読み取る</li> <li>作品の内容を自分と関係付けながらものの見方、感じ方、考え方を深める</li> </ul>			2		
	漢文編 漢文入門 漢詩	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解すると共に格言に親しむ</li> <li>漢和辞典の使い方を知り、漢字の読みと意味の関係を理解する</li> <li>漢文の読解に慣れ親しむ</li> <li>漢詩とそれを踏まえた古文を読み、漢文が日本文学に与えた影響について知る</li> </ul>			3		
	現代文編 詩歌 小説	<ul style="list-style-type: none"> <li>短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉にこめられた情景や心情を読み取る</li> <li>俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る</li> <li>比喩とリフレーンの効果を理解して詩を読み味わい、作者のものの感じ方について考える</li> <li>登場人物の心情の変化を場面展開に即して読み取り、主題を考える</li> </ul>			4	2	後期
	古文編 詩歌 物語 紀行	<ul style="list-style-type: none"> <li>詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取る</li> <li>自分の感じたことや伝えたいメッセージなどを、古典的技法に倣って短歌にし、効果的に書く</li> <li>歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える</li> </ul>			5		
	漢文編 論語 史話	<ul style="list-style-type: none"> <li>軍記物語特有の表現に注意し、登場人物の言動や心情を読み取る</li> <li>孔子の思想に興味を持ち、ものの見方や考え方を豊かにする</li> <li>漢文を自分で解釈する力を養う</li> <li>史話のおもしろさを味わう</li> </ul>			6		



評価方法	試験の得点：60%    RP・SC の取組：各 20%
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること
	SC：所定の時間出席すること
	試験：前・後期試験の両方に合格すること
使用教科書	教科書：東京書籍「新編言語文化」(言文 701)
その他の事項	

RP：レポート    SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
国語	論理国語	2年次	選択	4	12回	4時間		
科目の概要	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する力を学習する。							
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。</li> <li>2. 論理的、批判的に考える力を伸ばすと共に、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</li> <li>3. 言葉がもつ価値への認識を深めると共に、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ol>							
学習内容		学習目標				RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	未定	未定	1			1	2	前期
			2					
			3					
			4					
			5					
			6					
	未定	未定	7			3	4	後期
			8					
			9					
			10					
			11					
			12					
評価方法	試験の得点：未定    RP・SC の取組：未定							
	R P：未定							
	S C：未定							
	試験：未定							
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること							
	SC：所定の時間出席すること							
	試験：前・後期試験の両方に合格すること							
使用教科書	教科書：未定							
その他の事項								

RP：レポート    SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
国語	文学国語	3年次	選択	4	12回	4時間		
科目の概要	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する力を学習する。							
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けると共に、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</li> <li>2. 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすと共に、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</li> <li>3. 言葉がもつ価値への認識を深めると共に、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ol>							
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験範囲	
年間学習計画・学習のねらい	未定	未定			1	1	前期	
					2			
					3			
					4	2		
					5			
					6			
	未定	未定				7	3	後期
						8		
						9		
						10	4	
						11		
						12		
評価方法		試験の得点：未定 RP・SCの取組：未定						
		R P：未定						
		S C：未定						
		試験：未定						
単位の修得		RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
		SC：所定の時間出席すること						
		試験：前・後期試験の両方に合格すること						
使用教科書		教科書：未定						
その他の事項								

RP：レポート SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
国語	国語表現	2年次	選択	4	12回	4時間	
科目の概要	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する力を学習する。						
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。</li> <li>2. 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</li> <li>3. 言葉がもつ価値への認識を深めると共に、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ol>						
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	未定	未定	1	1	2	前期	
			2				
			3				
			4				
			5				
			6				
	未定	未定	7	3	4	後期	
			8				
			9				
			10				
			11				
			12				
評価方法	試験の得点：未定 RP・SC の取組：未定						
	R P：未定						
	S C：未定						
	試験：未定						
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
	SC：所定の時間出席すること						
	試験：前・後期試験の両方に合格すること						
使用教科書	教科書：未定						
その他の事項							

RP：レポート SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
国語	古典探究	3年次	選択	4	12回	4時間		
科目の概要	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する力を学習する。							
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けると共に、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。</li> <li>論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</li> <li>言葉がもつ価値への認識を深めると共に、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ol>							
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験 範囲	
年間学習計画・学習のねらい	未定	未定			1	1	前期	
					2			
					3			
					4	2		
					5			
					6			
	未定	未定				7	3	後期
						8		
						9		
						10	4	
						11		
						12		
評価方法		試験の得点：未定    RP・SC の取組：未定						
		R P：未定						
		S C：未定						
		試験：未定						
単位の修得		RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
		SC：所定の時間出席すること						
		試験：前・後期試験の両方に合格すること						
使用教科書		教科書：未定						
その他の事項								

RP：レポート    SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
地理歴史	地理総合	1 年次	必修	2	6 回	2 時間	
科目の概要	現代世界の地理的問題や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し学習する。						
科目の目標	<p>1. 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解すると共に、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。</p> <p>2. 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>3. 地理に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さの自覚などを深める。</p>						
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験範囲
年間学習計画・学習のねらい	地図や地理情報システムでとらえる現代世界（1）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図の種類・図法その利用について理解する</li> <li>・現代社会について、様々な資料から読み取り、理解する</li> </ul>			1	1	前期
	地図や地理情報システムでとらえる現代世界（2）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信技術及び交通手段の発達による生活の変化を理解する</li> <li>・多極化する世界の変化について理解する</li> </ul>			2		
	国際理解と国際協力（1）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活文化と民族と宗教の関わりについて理解する</li> <li>・多様な気候とその分布について理解する</li> </ul>			3		
	国際理解と国際協力（2）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業の発達と変化について、自然環境との関わりやグローバル化の視点から考察する</li> <li>・世界・日本の環境問題の特徴と対策について理解する</li> <li>・発展途上国、先進国の人口問題について理解する</li> </ul>			4	2	後期
	持続可能な地域づくりと私たち（1）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の地形や特徴について理解する</li> </ul>			5		
	持続可能な地域づくりと私たち（2）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が及ぼす要因・影響を理解し、防災・減災に向けた取り組みを考察する</li> </ul>			6		
評価方法	試験の得点：60%      RP・SC の取組：各 20%						
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと						
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること						
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること						
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
	SC：所定の時間出席すること						
	試験：前・後期試験の両方に合格すること						
使用教科書	教科書：東京書籍「地理総合」（地総 701）						
その他の事項							

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP回数	SC時間		
地理歴史	歴史総合	2年次	必修	2	6回	2時間		
科目の概要	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p>							
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解すると共に、諸資料から歴史に関する様々な情報を、適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</li> <li>2. 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>3. 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うと共に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</li> </ol>							
学習内容		学習目標				RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	歴史の扉 歴史と私たち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸資料を活用し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する</li> <li>・日本や世界の様々な地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、図像などの資料を活用し、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する</li> </ul>				1		前期
	近代化と私たち(1) 結び付く世界と日本の開国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、18世紀のアジアの経済と社会を理解する</li> <li>・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、工業化と世界市場の形成を理解する</li> </ul>				2	1	
	近代化と私たち(2) 国民国家と明治維新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲制と国民国家の形成を理解する</li> <li>・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する</li> </ul>				3		

年間学習計画・学習のねらい	国際秩序の変化や大衆化と私たち	・第一次世界大戦と第二次世界大戦、その後の冷戦を経る中での国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察する	4	2	後期
	グローバル化と私たち（1） 世界秩序の変容と日本	・冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察する ・近年におけるアジア諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、市場経済の変容と課題を理解する	5		
	グローバル化と私たち（2） 現代的な諸課題の形成と展望	・科目のまとめとして、現代的な諸課題に関する主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会に向けて、現代的な諸課題の展望を探究する	6		
評価方法	試験の得点：60%      RP・SC の取組：各 20%				
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと				
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること				
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること				
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること				
	SC：所定の時間出席すること				
	試験：前・後期試験の両方に合格すること				
使用教科書	教科書：東京書籍「新選歴史総合」（歴総 701）				
その他の事項					

RP：レポート      SC：スクーリング



教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
地理歴史	日本史探究	3 年次	選択	3	9 回	3 時間		
科目の概要	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p>							
科目の目標	<p>1. 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>2. 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>3. 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>							
学習内容		学習目標				RP 回	SC 回	試験範囲
年間学習計画・学習のねらい	未定	未定	1	1	2	前期		
			2					
			3					
			4					
			5					
	未定	未定	6	3	後期			
			7					
			8					
			9					
	評価方法	試験の得点：未定 RP・SC の取組：未定						
R P：未定								
S C：未定								
試験：未定								
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること							
	SC：所定の時間出席すること							
	試験：前・後期試験の両方に合格すること							
使用教科書	教科書：未定							
その他の事項								

RP：レポート SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP回数	SC時間				
公民	公共	1年次	必修	2	6回	2時間				
科目の概要	現代社会の諸問題の解決に向けた選択・判断の手がかりとなる考え方や基本的原理を学び、追求し、解決方法について説明できるよう学習していく。									
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念と共に、諸資料から倫理的主体など活動するために、必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</li> <li>2. 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</li> <li>3. よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うと共に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される現代社会に生きる人間としての在り方生き方の自覚や、公共的な空間に生き、国民主権を担う公民として自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さの自覚などを深める。</li> </ol>									
学習内容		学習目標				RP 回	SC 回	試験 範囲		
年間学習計画・学習のねらい	「公共」のとびら (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期の特徴や発達課題の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の課題について考察する</li> <li>・現代社会を生きていく上で、キャリア開発や社会参画の意義を考察する</li> <li>・日常的に用いられる「公共」の意味を考え、言葉の意味や用法に気付き、どのような課題につながっているか考察する</li> <li>・行為の判断や選択場面を想定し、目的論と義務論の区別を理解する</li> </ul>				1	1	前期		
	「公共」のとびら (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理的課題について考察・判断する</li> <li>・社会における利害の調整のしくみとしての市場の働きと国家の役割、それぞれの課題について理解する</li> <li>・立憲主義・民主主義の意義、それらの課題について理解する</li> <li>・人間の尊厳と平等、基本的人権の尊重の意義を理解する</li> </ul>				2				
	自立した主体として 社会に参画する私たち (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治の働き、民主主義の具体的な姿について理解する</li> <li>・地方自治のしくみ、地方財政のしくみと課題、住民参加の形態と意義について理解する</li> <li>・国会のしくみと役割を理解する</li> <li>・法や規範の役割を理解し、生活にどのように関わってくるのか理解する</li> <li>・司法のしくみと役割を理解する</li> </ul>				3				
	自立した主体として 社会に参画する私たち (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の経済と市場のメカニズムを考察し理解する</li> <li>・金融のしくみと働きについて理解する</li> <li>・財政の役割と社会保障制度について、実生活との関わりを含め理解する</li> </ul>				4				
	自立した主体として 社会に参画する私たち (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働くことの意義と職業選択について考察し、理解する</li> <li>・労働者の権利と雇用・労働問題について考察し、理解する</li> <li>・国際社会のルールとしくみについて理解する</li> <li>・グローバル化する国際経済のしくみを理解する</li> </ul>				5			2	後期
	接続可能な社会づくりに参画するために	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の諸課題について、探究的な課題を設定し、問題解決に向けた情報収集を行い、分析・考察する</li> <li>・探究の結果や自分の主張を説明し、表現できる</li> </ul>				6				

評価方法	試験の得点：60%      RP・SC の取組：各 20%
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること
	SC：所定の時間出席すること
	試験：前・後期試験の両方に合格すること
使用教科書	教科書：東京書籍「公共」（公共 701）
その他の事項	

RP：レポート      SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
公民	倫理	2年次	選択	2	6回	2時間		
科目の概要	グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者として、必要な公民の資質・能力を養うことを学習する。							
科目の目標	<p>1. 世界の幅広い知的遺産を通じて、現代の諸課題を捉え直し、より深く考察し、思索する手掛かりとなる概念や理論を身につけ、諸資料から、人間としての在り方、生き方に関わる情報を、適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>2. 他者とともによりよく生きる自立した人間はいかにあるべきかについて、現代の倫理的課題について論理的に思索し、倫理に関する概念や理論を活用して思索を深め、説明したり対話する力を養う。</p> <p>3. 人間としての在り方に関わる事象や課題について主体的に追求し、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方について自覚を深める。</p>							
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験 範囲	
年間学習計画・学習のねらい	現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の定義について考えたうえで、パスカルの言葉を手掛かりに「考えること」の意義について考える。</li> <li>・「心」</li> </ul>			1	1	前期	
				2				
	現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方(2)	未定			3			
				4				
	現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方(3)				5			
				6				
	現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方(4)				7			後期
				8				

	現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方(5)		9	2	
			10		
	11				
	12				
評価方法		試験の得点：60% RP・SC の取組：各 20%			
		P R：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと			
		SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること			
		試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること			
単位の修得		P R：締切までに所定の RP を提出し、合格すること			
		SC：所定の時間出席すること			
		試験：前・後期試験の両方に合格すること			
使用教科書		教科書：東京書籍「倫理」(倫理 701)			
その他の事項					

RP：レポート SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
数学	数学 I	1 年次	必修	3	9 回	3 時間		
科目の概要	数学に興味・関心をもち、主体的・意欲的に学習する姿勢を培う。							
科目の目標	<p>1. 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解すると共に、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> <p>2. 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> <p>3. 数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>							
学習内容	学習目標				RP 回	SC 回	試験範囲	
年間学習計画・学習のねらい	数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字を使った式の表し方の約束を確認し、正しく文字式を扱うことができる</li> <li>多項式と単項式の意味を理解し、計算ができる</li> <li>乗法公式、因数分解について理解し、利用できる</li> </ul>			1	1	前期	
	実数	<ul style="list-style-type: none"> <li>平方根について理解する</li> <li>自然数、整数、有理数、無理数や実数の意味を理解する</li> </ul>			2			
	方程式と不等式	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 次方程式について理解し、身近な問題を解決できる</li> <li>不等式を調べることで不等式の性質を理解し、不等式の性質を用いて不等式を解くことができる</li> <li>2 次方程式について理解し、平方根の考え、因数分解を用いて 2 次方程式を解くことができる</li> </ul>			3			
	2 次関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数の概念を理解する</li> <li>1 次関数、2 次関数のグラフをかくことができる</li> </ul>			4	2		
	2 次関数の値の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 次関数の最大値・最小値についてグラフを利用して理解し、値を求めることができる</li> <li>2 次関数のグラフと 2 次方程式の解の関係を理解し、<math>x</math>座標を求めることができる</li> </ul>			5			
	鋭角の三角比	<ul style="list-style-type: none"> <li>相似な三角形の性質、三平方の定理、サイン、コサイン、タンジェントの意味を理解する</li> <li>三角比の表の利用の仕方を学び、三角比の表を活用して値を求め、三角比の有用性を認識する</li> </ul>			6	3		後期
	三角比の応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた辺の長さや角の大きさから、三角形の面積を求める</li> <li>正弦定理、余弦定理を理解し、図形の計量の際に有効に活用する</li> </ul>			7			

年間学習計画・学習のねらい	データの分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計的探求プロセスを意識した統計的問題解決の活動について理解できる</li> <li>・相関関係について理解できる</li> </ul>	8	3	後期
	集合と検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部分集合・全体集合・補集合・共通部分・和集合などの集合の表し方、用語・記号を図を用いて理解し、記号を使って表すことができる</li> <li>・命題の真偽と反例を考えることができ、また必要条件・十分条件・必要十分条件の意味を知り、さらに図表示による包含関係と関連付けて理解できる</li> <li>・命題の逆、裏、対偶について理解し、対偶を利用した証明法や背理法による証明法を学び、論理的な思考力を養うようにする</li> </ul>	9		
評価方法	試験の得点：60%      RP・SC の取組：各 20%				
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと				
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること				
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること				
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること				
	SC：所定の時間出席すること				
	試験：前・後期試験の両方に合格すること				
使用教科書	教科書：東京書籍「新数学 I」(数 I 704)				
その他の事項	教科書の最初に「数の計算」の練習問題があります。 解答付きなので各自で取り組みましょう。				

RP：レポート      SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
数学	数学 A	2 年次	選択	2	6 回	2 時間	
科目の概要	図形の性質について、数学的活動を通してその有用性を認識する。						
科目の目標	<p>1. 図形の性質、場合の数と確率の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解すると共に、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> <p>2. 図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見出し、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見出し、数理的に考察する力を養う。</p> <p>3. 数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>						
学習内容	学習目標				RP 回	SC 回	試験範囲
年間学習計画・学習のねらい	集合	部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合などの集合の表し方、用語、記号を、図を用いて理解し、記号を使って表すことができる			1	1	前期
	直線と角	平行線と角の関係を理解し、これらを利用して角の大きさを求めることができる			2		
	三角形と比	三角形と比の性質や中点連結定理を理解し、それを用いて線分の長さを求めることができる			3		
	円の接線	円の接線の性質、接線の長さについて理解し、それらを利用して、接線の長さや三角形の辺の長さを求めることができる			4	2	後期
	数を表す	古代の人々の記数法や漢数字による記数法について理解できる			5		
	数で遊ぼう (魔方陣)	魔方陣のしくみや解き方を筋道立てて考えることができ、また魔方陣をつくることのできる			6		
評価方法	試験の得点：60%      RP・SC の取組：各 20%						
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと						
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること						
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること						
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
	SC：所定の時間出席すること						
	試験：前・後期試験の両方に合格すること						
使用教科書	教科書：東京書籍「新数学 A」(数 A704)						
その他の事項	計算や証明だけでなく、論理的な思考力や論理的に物事を説明する力を伸ばします。						

RP：レポート      SC：スクーリング



教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP回数	SC時間	
理科	物理基礎	1年次	必修	2	6回	8時間	
科目の概要	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察などを行う。						
科目の目標	1. 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解すると共に、科学的に探究するために必要な観察などに関する基本的な技能を身に付ける。 2. 観察などを行い、科学的に探究する力を養う。 3. 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。						
学習内容		学習目標			RP回	SC回	試験範囲
年間学習計画・学習のねらい	物理量の測定と扱い方	物理学を学習する上で必要な物理量の表し方や測定における不確かさ、測定値の扱い方、有効数字の計算や科学表記の方法を理解する			1	1	前期
	直線運動の世界	日常に起こる物体の運動の基本的な表し方や加速度について、直線運動を中心に理解する				2	
	力と運動の法則	運動の三法則や物体の落下運動の特徴について理解する			2	3	
	力学的エネルギー	実験を通して、物体に働く力と運動の関係について理解する			3	4	
	熱	熱と温度について原子や分子の熱運動の視点から理解し、また熱と仕事の変換について理解する			4	5	後期
	波	気柱の共鳴、弦の振動及び音波の性質について理解する			5	6	
	電気	物質による抵抗率の違いや、日常生活での交流の利用について理解する			6	7	
	エネルギーとその利用	人類が利用可能なエネルギーの特性や利用について理解する				8	
評価方法	試験の得点：60%    RP・SCの取組：各20%						
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと						
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること						
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること						
単位の修得	RP：締切までに所定のRPを提出し、合格すること						
	SC：所定の時間出席すること						
	試験：前・後期試験の両方に合格すること						
使用教科書	教科書：東京書籍「新編物理基礎」(物基702)						
その他の事項							

RP：レポート    SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP回数	SC時間	
理科	化学基礎	2年次	必修	2	6回	8時間	
科目の概要	目的意識をもって観察などを行い、化学の基本的な概念や原理・法則を学習する。						
科目の目標	1. 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解すると共に、科学的に探究するために必要な観察などに関する基本的な技能を身に付ける。 2. 観察などを行い、科学的に探究する力を養う。 3. 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。						
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	化学とは何か 物質の成分	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質には性質があり、私たちはそれを利用して生活していることを理解する</li> <li>身のまわりの物がどのような物質から構成されているかを理解する</li> </ul>			1	1	前期
	物質の構成元素	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質は元素からつくられていることを理解する</li> </ul>			2	2	
	原子の構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子の構造を理解する</li> </ul>				3	
	化学結合①	<ul style="list-style-type: none"> <li>イオン結合と物質の成り立ちの関係を理解する</li> </ul>			3	4	
	化学結合②	<ul style="list-style-type: none"> <li>共有結合と物質の成り立ちの関係を理解する</li> </ul>			4	5	後期
	物質と化学反応式	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の質量及び溶液の濃度について理解する</li> </ul>			5	6	
	酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸と塩基の性質を理解する</li> </ul>			6	7	
	酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸化還元と電子の授受の関係を理解する</li> </ul>				8	
評価方法	試験の得点：60%    RP・SCの取組：各20%						
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと						
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること						
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること						
単位の修得	RP：締切までに所定のRPを提出し、合格すること						
	SC：所定の時間出席すること						
	試験：前・後期試験の両方に合格すること						
使用教科書	教科書：東京書籍「新編化学基礎」(化基702)						
その他の事項	化学の基礎が日常生活や社会生活を支えている科学技術と結び付いていることに気がみましょう。						

RP：レポート    SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
理科	生物基礎	3年次	必修	2	6回	8時間	
科目の概要	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象への関心を高め、理科の見方・考え方を働かせ見通しをもって観察などを行う。						
科目の目標	1. 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解すると共に、科学的に探究するために必要な観察などに関する基本的な技能を身に付ける。 2. 観察などを行い、科学的に探究する力を養う。 3. 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。						
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	生物の多様性と共通性	生物の多様性、共通性について理解する			1	1	前期
	生物とエネルギー	生活の様々な場面でのエネルギーの利用について理解する			2	2	
	遺伝情報と DNA	遺伝情報を担う DNA の特徴を理解する			3	3	
	遺伝情報とタンパク質の合成	DNA⇒タンパク質が合成される過程を理解する			4	4	
	ヒトの体を調節するしくみ	体内環境とは何かを理解する			5	5	後期
	免疫のはたらき	免疫のしくみを理解する				6	
	植生と遷移	生物と環境のつながりを理解する			6	7	
	生態系と生物の多様性	生態系における生物の多様性を理解し、生態系を保全する意義を理解する				8	
評価方法	試験の得点：60% RP・SC の取組：各 20%						
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと						
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること						
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること						
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
	SC：所定の時間出席すること						
	試験：前・後期試験の両方に合格すること						
使用教科書	教科書：東京書籍「新編生物基礎」(生基 702)						
その他の事項	生物基礎が日常の様々な場面に関わっていることを体感していきます。						

RP：レポート SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
保健体育	体育	1 年次	必修	3	3 回	15 時間	
科目の概要	生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付ける。						
科目の目標	1. 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解すると共に、技能を身に付ける。 2. 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断すると共に、他者に伝える力を養う。 3. 生涯にわたって継続して運動に親しむと共に、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験範囲
年間学習計画・学習のねらい	体育理論①	スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展を理解する			1	1	前期
	体づくり運動①	実技（体ほぐし運動他）				2	
	バレーボールとバスケットボール理論	ルールを理解する				3	
	バスケットボール①	実技				4	
	バレーボール①	実技				5	
	体育理論②	運動やスポーツの効果的な学習の仕方を理解する			2	6	
	体づくり運動②	実技（ウォーキング他）				7	
	バドミントンと卓球理論	ルールを理解する				8	
	バドミントン①	実技			3	9	後期
	卓球①	実技				10	
	体育理論③	運動やスポーツの効果的な学習の仕方を理解する				11	
	体づくり運動③	実技（ジョギング他）				12	
	ダンス理論	ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、交流や発表の仕方、課題解決の方法、体力の高め方を理解する				13	
	創作ダンス①	実技				14	
	創作ダンス②	実技				15	
評価方法	試験の得点：30% RP の取組：20% SC の取組：50%						
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと						
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること						
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること						
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
	SC：所定の時間出席すること						
	試験：前・後期試験の両方に合格すること						
使用教科書	教科書：大修館書店「現代高等保健体育」（保体 701）						
その他の事項							

RP：レポート SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
保健体育	体育	2 年次	必修	2	2 回	10 時間	
科目の概要	生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付ける。						
科目の目標	1. 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解すると共に、技能を身に付ける。 2. 運動や健康についての自我や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断すると共に、他者に伝える力を養う。 3. 生涯にわたって継続して運動に親しむと共に、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験範囲
年間学習計画・学習のねらい	体育理論④	運動やスポーツの効果的な学習の仕方			1	1	前期
	サッカーとソフトボール理論	ルールを理解する				2	
	サッカー①	実技				3	
	ソフトボール①	実技				4	
	フォークダンス	実技				5	
	体づくり運動④	実技（縄跳び、ダブルダッチ他）			2	6	後期
	体育理論⑤	豊かなスポーツライフの設計の仕方				7	
	バスケットボール②	実技				8	
	バレーボール②	実技				9	
	剣道	実技				10	
評価方法	試験の得点：30% RP の取組：20% SC の取組：50%						
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと						
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること						
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること						
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
	SC：所定の時間出席すること						
	試験：前・後期試験の両方に合格すること						
使用教科書	教科書：大修館書店「現代高等保健体育」（保体 701）						
その他の事項							

RP：レポート SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
保健体育	体育	3 年次	必修	2	2 回	10 時間	
科目の概要	生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付ける。						
科目の目標	1. 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解すると共に、技能を身に付ける。 2. 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断すると共に、他者に伝える力を養う。 3. 生涯にわたって継続して運動に親しむと共に、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験範囲
年間学習計画・学習のねらい	体づくり運動⑤	実技（バランス他）			1	1	前期
	バドミントン②	実技				2	
	卓球②	実技				3	
	現代ダンス	実技				4	
	体育理論⑥	豊かなスポーツライフの設計の仕方を学ぶ				5	
	サッカー②	実技			2	6	後期
	ソフトボール②	実技				7	
	ニュースポーツ	実技				8	
	球技・ダンス・体づくり運動・ニュースポーツ・剣道	実技（希望が多い種目を行う）				9	
	体育理論⑦	まとめ				10	
評価方法	試験の得点：30% RP の取組：20% SC の取組：50%						
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと						
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること						
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること						
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
	SC：所定の時間出席すること						
	試験：前・後期試験の両方に合格すること						
使用教科書	教科書：大修館書店「現代高等保健体育」（保体 701）						
その他の事項							

RP：レポート SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
保健体育	保健	1 年次	必修	1	3 回	1 時間		
科目の概要	自分の生涯を健康に安全に、また自分の周囲の人々と、共により良い環境で過ごせるように知識を深める。							
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解すると共に、技能を身に付ける。</li> <li>2. 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断すると共に、他者に伝える力を養う。</li> <li>3. 生涯にわたって継続して運動に親しむと共に、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</li> </ol>							
学習内容		学習目標				RP 回	SC 回	試験範囲
年間学習計画・学習のねらい	現代社会と健康①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康を成り立たせている要因について理解する</li> <li>・我が国の健康水準の変化とその背景及び現在の健康問題について理解する</li> </ul>				1	1	前期
	安全な社会生活①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全のために必要な行動や環境整備を理解する</li> <li>・事故の実態と被害の実態について、事故の発生に人的要因と環境要因が関連していることを理解する</li> </ul>						
	生涯を通じる健康①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージと健康の関連を理解する</li> <li>・思春期における体や心の変化、男女の性意識や健康課題について理解する</li> <li>・家族、結婚、出産、労働など、それぞれの心身の変化や状況について理解する</li> </ul>				2		後期
	健康を支える環境づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気汚染、水質汚濁、土壌汚染といった環境汚染と、健康被害との関連を理解する</li> <li>・健康の保持増進のための環境づくりについて理解する</li> </ul>				3		
評価方法		試験の得点：60%    RP・SC の取組：各 20%						
		RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと						
		SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること						
		試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること						
単位の修得		RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
		SC：所定の時間出席すること						
		試験：前・後期試験の両方に合格すること						
使用教科書		教科書：大修館書店「現代高等保健体育」（保体 701）						
その他の事項								

RP：レポート    SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
保健体育	保健	2年次	必修	1	3回	1時間	
科目の概要	自分の生涯を健康に安全に、また自分の周囲の人々と、共により良い環境で過ごせるように知識を深める。						
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解すると共に、技能を身に付ける。</li> <li>2. 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断すると共に、他者に伝える力を養う。</li> <li>3. 生涯にわたって継続して運動に親しむと共に、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</li> </ol>						
学習内容	学習目標				RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	現代社会と健康②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症とは何かについて理解できる</li> <li>・感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる</li> </ul>			1	1	前期
	安全な社会生活②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応急手当の意義について理解できる</li> <li>・心肺蘇生法の方法と手順について理解できる</li> </ul>			2		
	生涯を通じる健康②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働くことの意義と健康とのかかわりについて理解できる</li> <li>・労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる</li> </ul>			3		後期
	健康を支える環境づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品の正しい使用法について理解できる</li> <li>・行政機関による保健活動等の社会的対策について例をあげて説明できる</li> </ul>					
評価方法	試験の得点：60%    RP・SC の取組：各 20%						
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと						
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること						
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること						
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
	SC：所定の時間出席すること						
	試験：前・後期試験の両方に合格すること						
使用教科書	教科書：大修館書店「現代高等保健体育」(保体 701)						
その他の事項							

RP：レポート    SC：スクーリング



教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP回数	SC時間	
芸術	音楽 I	1年次	必修	2	6回	8時間	
科目の概要	生涯にわたって主体的に音楽を愛好していこうとする心情の育成を目指す。						
科目の目標	<p>1. 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。</p> <p>2. 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。</p> <p>3. 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>						
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	オリエンテーション	高校生として音楽を学ぶにあたって、自分にとっての音楽の存在を再認識すると共に、様々な音楽に自ら積極的に関わり、音楽を幅広く様々な視点から捉えようとする態度を養う			1	1	前期
	イメージをもって歌おう	「夏の思い出」の楽曲の魅力を探る学習を通して、曲に対する自己のイメージを豊かにしたり、他者の音楽表現に共感したりしながら歌唱表現を創意工夫する手立てを学ぶ			2	2	
	日本歌曲を歌おう	日本語の抑揚や間、語感、歌詞としてのまとまりが旋律の流れやフレーズにどのように表され、曲想を生み出しているかに関心を持ち、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する			3	3	
	古の音楽に思いをはせよう	雅楽の楽器の音色や奏法、楽器の構造、管弦の響きに関心を持ち、雅楽固有の特徴が日本人の音感覚や美意識、他の文化・歴史と関わりながら育まれてきたことを理解し、そのよさや美しさを自ら味わって聴く				4	
	オーケストラの魅力を探ろう	オーケストラの様々な楽器の音色や響き、またボレロのリズムの繰り返しに乗せた二つの旋律が様々な楽器やその組み合わせによって展開されながらもたらず表現上の効果を理解し、そのよさや美しさを自ら味わって聴く			4	5	後期
	吹奏楽の魅力を味わおう	吹奏楽の様々な楽器の音色や響き、また繰り返し現れるモチーフの変化と曲想や表現上の効果との関わりを理解し、そのよさや美しさを自ら味わって聴く			5	6	
	物語と音楽との関わりに注目しよう	オペラやミュージカルなどの総合芸術において、物語と音楽が関わり合いながらどのような表現上の効果をもたらしているか、音楽と他の文化が互いにどのように影響を合せて発展してきたかを考える			6	7	
	まとめ	この教科で学習した教材から選択し、クラス全体での合唱や器楽アンサンブルをしながら、音楽活動の喜びや楽しさを味わい、またオリエンテーション時に学習した「あなたにとって音楽とは」が、1年間の学習を経てどのように変容したかを考える				8	

評価方法	試験の得点：30% RP の取組：20% SC の取組：50%
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること
	SC：所定の時間出席すること
	試験：前・後期試験の両方に合格すること
使用教科書	教科書：教育出版「音楽 I Tutti+」(音 I 701)
その他の事項	

RP：レポート SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
保育	保育入門	2年次	選択	2	2回	2時間		
科目の概要	<p>生徒自身は幼少期に何らかの形で「保育」を体験し、「保育」を知っている。どのような毎日だったのか、どこで、どのように遊んでいたのか。生徒自身の実体験を踏まえて、現代の乳幼児の生活を見つめながら、「保育とは何か」、「保育が果たす役割」について理解を深めていく。また、将来、父親、母親となる生徒が、どのような家庭や家族を築くことで子どもの幸せが保障できるのかを考えながら、保育が生徒自身の成長に与えた影響について考える機会とする。</p>							
科目の目標	<p>1. 現代の子どもたちが必要としている保育を考えながら、保育の意義・役割について理解できるようにする。</p> <p>2. 生まれて間もない赤ちゃんには、24時間、優しく温かな母親の胸元が必要である。しかし、近年は両親共働きが多くみられ、それに代わる担い手が求められている。保育現場で今行われている保育や子育て支援について理解し、子どもを取り巻く環境の変化を知り、保育に対する関心と課題意識を高める。</p>							
学習内容		学習目標				RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	保育の意義・役割について	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身が家庭での位置を自覚するとともに、親の役割や性・愛の問題について自分の考えや意見が言える。将来、父となり母となる生徒自身が子どもを生み育てることの意義を学び、理解する。</li> <li>保育の意義・役割の基本的な事項を体系的・系統的に学び、保育の意味や保育が人間形成にどのように関わるのかを理解する。</li> </ul>				1	1	後期
	保育の現状と課題について	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てを支える社会の仕組みについて知り、さまざまな子育て支援が行われている現状を理解する。子どもや家庭を取り巻く環境の変化を確認し、家庭保育や集団保育に求められる保育がどのようなものかを考える。</li> <li>子育てにおける4つの虐待行為（身体的、性的、ネグレクト、心理的）について、新聞やネットなどの記事を利用し、その原因と対応について自分の考えや意見が言える。</li> </ul>				1	1	
評価方法		試験の得点：60%    RP・SCの取組：各20%						
		RP：プリント冊子等を活用し、計画的に取り組むこと						
		SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること						
		試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること						
単位の修得		RP：締切までに所定のRPを提出し、合格すること						
		SC：2時間出席すること						
		試験：後期試験に合格すること						
参考書等		『戦後の子どもの生活と保育』日本保育学会編 相川書房／『保育学入門—子どもたちと共に生きる保育者—』ステファニーフィーニ、ドリス・クリステンセン、エヴァ・モラヴィク著、大場幸夫/前原寛訳 ミネルヴァ書房などを活用したプリント等						
その他の事項								

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
保育	保育技術	3年次	選択	2	2回	2時間	
科目の概要	<p>子どもの遊びは生活そのものである。充実した遊びの中で子どもたちは発達に必要な経験を積み重ねていく。遊びの特徴は、自発的にはじめる、夢中になる、終わりがあるというものである。ここでは、生徒自身の遊び体験を振り返ることを通して、遊びの意味を考える機会とする。遊びに必要な保育技術があることを知り、それらの遊びが乳幼児期の子どもの成長・発達にどのような影響を与えるのか、考える機会とする。</p>						
科目の目標	<p>1. 遊びとは、ただ単に好きなことをしているだけではなく、子どもにとって学びにつながる大事な行動である。さまざまな遊びと乳幼児期の子どもの成長との関わりについて体系的に理解する。</p> <p>2. 五感を十分に使った感覚遊びや運動遊び、受容遊びや構成遊びなど実践的な保育技術を体験的に学ぶ。</p>						
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	遊びの意味と役割について	<p>・子どもにとっての「遊び」は、その先の人生で重要となる自発性や表現力、コミュニケーション能力などさまざまなことを学び、身につけられる機会となる。ここでは、発達に応じた遊びが、それぞれの成長期においてどのような影響を与えるのか、また、それぞれの遊びにどのような意味があり、どのような役割を果たしているのかを生徒自身の体験をもとに考える。</p>			1	1	後期
	保育技術・遊び体験について	<p>・玩具の感触を楽しむ「感覚遊び」、筋肉の発達に伴った体操やボール遊びなどの「運動遊び」、絵本の読み聞かせなどの「受容遊び」や粘土や折り紙などの「構成遊び」などさまざまな遊びがあることを理解し、子ども自身が「やりたい」と思って自発的に取り組む活動内容について知る。手具を使った遊び（ペープサート、エプロンシアター、パネルシアターや手袋シアターなど）や、新聞紙や段ボールなどを使って遊ぶ幼児造形について、実践的な保育技術の果たす役割を体験的に学ぶ。</p>			1	1	
評価方法		試験の得点：60%    RP・SC の取組：各 20%					
		RP：プリント冊子等を活用し、計画的に取り組むこと					
		SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること					
		試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること					
単位の修得		RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること					
		SC：2時間出席すること					
		試験：後期試験に合格すること					
参考書等		『あそびのちから』河崎道夫著 ひとなる書房／『わくわくさんになれる！』久保田雅人著 現代書林 などを活用したプリント等					
その他の事項							

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
看護基礎	看護入門	2年次	選択	2	2回	2時間	
科目の概要	人の成長・発達の過程を理解し、ライフサイクルに応じた「健康」とは何かについて考える。また、日常生活における健康の維持や生活の質の向上のために、実践可能な支援を考え、看護の基本となる考え方を学ぶ。						
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人の成長・発達の過程を知る。</li> <li>2. さまざまなライフサイクルにおける「健康」の意義を理解する。</li> <li>3. 日常生活での健康維持に向けた支援方法を考える。</li> <li>4. 人の行動様式や心理を理解し、看護の役割や意義を理解する。</li> </ol>						
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	看護の対象となる人と健康について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人は生まれてから死ぬまで、成長と発達を続ける。これまでの自分自身の成長を振り返りながら、年齢に応じた発達過程を理解する。人は誰でも健康でありたいと考えるものであるが、ライフサイクルによって「健康」の捉え方が異なることを学ぶ。「健康」ということをあまり意識することのない高校生が、「健康とは何か」を考える機会とする。</li> <li>・家族や周りの人々など他者の健康についても考え、生活環境や人間関係が人の健康にどのように関わっているのかを考える。</li> <li>・上記のことを前提として、看護の対象となる人に興味・関心を持ち、自分自身や他者への理解を深める。</li> </ul>			1	1	後期
	看護の基本となる考え方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活者である人を理解し、健康と日常生活との関わり合いや課題を考える。健康維持や生活の質の向上に向けて、何をすればよいのか、何ができるのかを考える。</li> <li>・健康支援を考える過程で、看護の必要性や意義を知り、看護の基本的な考え方や姿勢を学ぶ。</li> </ul>			1	1	
評価方法		試験の得点：60%      RP・SC の取組：各 20%					
		RP：プリント冊子等を活用し、計画的に取り組むこと					
		SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること					
		試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること					
単位の修得		RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること					
		SC：2時間出席すること					
		試験：後期試験に合格すること					
参考書等		『看護学概論 [1] 基礎看護学』 医学書院 を参考にしたプリント等を作成し、配付する					
その他の事項							

RP：レポート      SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
看護基礎	看護技術	3年次	選択	2	2回	2時間		
科目の概要	日常生活行為である食事、排泄、清潔行為、移動などについて、その意義と役割を知り、セルフケアが不足した対象への援助について、実践を交えて学ぶ。また、看護における援助的関係の構築に必要なコミュニケーション技術を知り、対人関係について考える。看護を提供するために必要な看護技術の基礎的な事項を学ぶ中で、看護に対する考えを深め、「健康」へのはたらきかけについて考える。							
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>日常生活行為の意義を知る。</li> <li>日常生活行為の援助の実際を体験する。</li> <li>看護の対象となる人との信頼関係構築のためのコミュニケーション技術を学ぶ。</li> </ol>							
学習内容		学習目標				RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	日常生活援助技術について	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康な人にとっての日常生活行為（食事、排泄、清潔行為、移動、睡眠など）の意義や役割を学び、その重要性を知る。</li> <li>ベッドメイキング、シーツ交換、移動、食事援助等の日常生活の援助技術を実践し、援助の実際を学ぶ。また、生徒自身が援助を受けることを体験し、より良い援助には何が必要なのかを考える。</li> </ul>				1	1	後期
	コミュニケーション技術について	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象との信頼関係の構築は、必要な援助をするための基盤となる。自分の言動が相手にどのような影響を与えているのか、自己を見つめ直して考え、対人関係を築いていく方法について考える。看護の対象との援助的関係構築におけるコミュニケーションの意義と役割、必要な基本的技術を学ぶ。</li> <li>話を聞く姿勢や相手の気持ちを考えた対話の仕方、非言語コミュニケーションなどのコミュニケーション技術を学ぶことにより、日常生活におけるコミュニケーションの大切さを再確認する機会とする。</li> </ul>				1	1	
評価方法		試験の得点：60%      RP・SC の取組：各 20%						
		RP：プリント冊子等を活用し、計画的に取り組むこと						
		SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること						
		試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること						
単位の修得		RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
		SC：2 時間出席すること						
		試験：後期試験に合格すること						
参考書等		『基礎看護技術』阿曾洋子ほか著    メディカルフレンド社    を参考にしたプリント等を作成し、配付する。						
その他の事項								

RP：レポート      SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
ICT	ICT 入門	2 年次	選択	2	2 回	2 時間		
科目の概要	高度情報化社会を経て、DX・ヒューマンコンピューテーション・AI など知的情報化社会にシフトしている。そのような変化の激しい時代を生き抜くための基礎力を身に付けるスタートとして、情報機器や情報モラルについて興味・関心を高めながら学ぶとともに、それらを用いた適切なコミュニケーション方法について学ぶ。また、ロボットによるプログラミング体験を通じ、自ら問題を発見・解決する力を高める。							
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報機器に関する知識、また社会におけるそれらを取り巻く課題や適切なコミュニケーション方法を理解する。</li> <li>2. 情報機器を活用した表現手法について理解する。</li> <li>3. 科学的に思考・吟味し、活用する力を共同で身につける。</li> </ol>							
学習内容		学習目標				RP 回	SC 回	試験範囲
年間学習計画・学習のねらい	学習環境に関連した情報リテラシー及び情報機器の特性と適切なコミュニケーション方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・著作権、個人情報の取り扱いなど、主に SNS によるコミュニケーション、例えば、さまざまな SNS がある中、なぜ Twitter ばかりが炎上するのかなど「情報モラル」についての理解を深める。また、検索ページを用いた、目的の情報に、より効率的に検索できる方法（サーチリテラシー）について学ぶ。</li> <li>・Gmail や Google Keep やカレンダーと、自身のスマートフォン（SP）との連携など、現在利用可能で代表的な汎用サービスの種類と特性について理解を深めた上で、例えば職場や自宅でのテレワークで使用する PC と SP などの可搬端末をシームレスに連携して活用できる力をつける。</li> </ul>				1	1	後期
	ロボットの仕組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PC を一切使わずに PC の要素技術について学ぶことのできる「コンピュータ・サイエンス（CS）・アンプラグド」や絵本を通じ、ICT の新しい切り口を体験する。</li> <li>・ロボットの仕組みについて学んだり、人間とコンピュータをセンサーの観点で比較したりすることに加え、市販されているロボットの操作体験を通じ、コンピュータの理解を深めプログラミングの構築における流れ・意味を理解し、興味関心を高める。</li> </ul>				1	1	
評価方法		試験の得点：60%    RP・SC の取組：各 20%						
		RP：プリント冊子等を活用し、計画的に取り組むこと						
		SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること						
		試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること						
単位の修得		RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
		SC：2 時間出席すること						
		試験：後期試験に合格すること						
参考書		『ルビィのぼうけん』リンダ・リウカス 株式会社翔泳社／『11 歳からの正しく怖がるインターネット』小木曾健 株式会社晶文社／『基本パソコン用語辞典』秀和システム編集本部 株式会社秀和システム						
その他の事項								

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
ICT	ICT 実践	3 年次	選択	2	2 回	2 時間		
科目の概要	<p>知的情報化社会で必要となる情報セキュリティ及びプログラミング的思考について学ぶ。情報セキュリティでは、身近な事例を基に情報の適切な取り扱いについて検討する。共同制作では、システムの開発手法について触れた後、体全体を使ってボタンを押すような、新奇な入出力装置を用いた情報教材や AR（拡張現実：Augmented Reality）等を用いて、グループでディスカッションやプレゼンテーションを行いながら、「組み合わせ」により「生み出す」というプログラミング的思考を身につける。</p>							
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>情報の適切な取り扱いについて理解を深める。</li> <li>既存の技術から価値を見つけ、生み出す力と好奇心・探求力を高める。</li> <li>文章や情報を正確に読み解き、内容を構造化する手法を体験的に学ぶ。</li> </ol>							
学習内容		学習目標				RP 回	SC 回	試験範囲
年間学習計画・学習のねらい	情報セキュリティとプログラミング的思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティのインシデント事例から、情報セキュリティにおける「機密性」、「完全性」、「可用性」についてそれぞれを区別して理解できるリテラシーを身につける。そして、コンピュータウイルス、ネット詐欺などのマルウェアからの被害に関する知識やプライバシーをどのように保護するかなど、個人レベルの情報セキュリティに視点を絞り、理解を深めることを目指す。</li> <li>HTML ソースがウェブサイトの構成とどう関連しているのか理解する。さらに、Python などのプログラミングについて理解を深める。</li> </ul>				1	1	後期
	情報機器を用いた共同制作（アイデア商品の企画書など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイデアの発想と整理を支援する手法としてブレインストーミング・KJ 法・マインドマップ・オズボーンのチェックリストなどの発想法を踏まえ、プログラミング的思考を用いながら、グループでディスカッションやプレゼンテーションを行い、他者と協力しながら新奇なアイデアを生み出す体験を通して思考力やコミュニケーション力を身につける。これらの活動を通して、具体的な ICT に関する興味・関心を醸成する。</li> </ul>				1	1	
評価方法		試験の得点：60%    RP・SC の取組：各 20%						
		RP：プリント冊子等を活用し、計画的に取り組むこと						
		SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること						
		試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること						
単位の修得		RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
		SC：2 時間出席すること						
		試験：後期試験に合格すること						
参考書等		『コンピュータを使わない情報教育アンプラグドコンピュータサイエンス』Tim Bell 他 イーテキスト研究所／『すごいブレスト』石井力重 フォレスト出版／『HTML5 & CSS3 ポケットリファレンス』森史憲 他 技術評論社／『基本パソコン用語辞典』秀和システム編集本部 株式会社秀和システム						
その他の事項								



教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
表現	イラスト	3年次	選択	2	2回	2時間		
科目の概要	イラストレーター、キャラクターデザイナー、グラフィックデザイナー、マンガ、アニメ、グッズなど今やさまざまな分野と関連する「コミックアート」の入門編として、デッサン、イラストレーション（似顔絵）などの演習を通して、画材の使い方や色彩の基礎知識、奥行き・立体的な表現など本分野に関する基本的な力を身につける。また、それらに加え、コンピュータを活用した表現の可能性についての事例などを学ぶことで、時代の流行や自身の特性に合った表現を自ら選択できるようにするための知識を学ぶ。							
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>感性と表現について理解し、「観察－思考－技術－表現」の流れを体験する。</li> <li>描画・表現方法の選択肢を増やすことのできる知識を身につける。</li> <li>アナログやデジタルなど、描画活動における表現方法について学ぶ。</li> </ol>							
学習内容		学習目標				RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	デッサンの基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>展開図やパースなどの立体的な構成の概念に触れ、デッサンする上で効果的な奥行き感の表現方法について、体験を通して段階的な理解を目指す。</li> <li>描画の際の対象物に対する観察力及び感性を磨き、基礎的な理解を踏まえた上でデッサンを体験する。</li> <li>ハッチングによる濃淡の表現や、鉛筆による対象物の硬さ、柔らかさなどの質感表現など体系的な理解を図る。</li> </ul>				1	1	後期
	色彩とイラストレーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現する上での色の基礎的な知識として 12 色相環を基に色相（色味）・明度（明るさ）・彩度（鮮やかさ）の 3 つの要素をおさえ、補色などの色の組み合わせの考察や、清色・濁色、明清色・暗清色などの混色について理解を深める。</li> <li>イラストレーション（似顔絵）における顔パーツの構造と捉え方に関して福笑いの要素を活用して理解を深めるとともに、シンボル化・輪郭・パーツ間距離を理解する。他にも絵本や話から想像を膨らませ、その続きを描く等の活動を通し、表現力に幅を持たせる。</li> </ul>				1	1	
評価方法		試験の得点：60%      RP・SC の取組：各 20%						
		RP：プリント冊子等を活用し、計画的に取り組むこと						
		SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること						
		試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること						
単位の修得		RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
		SC：2 時間出席すること						
		試験：後期試験に合格すること						
参考書等		『箱の設計』 ポールジャクソン ビー・エヌ・エヌ新社／『伝わる絵の描き方』 OCHABI Institute 株式会社インプレス／『子供の世界 子供の造形』松岡 宏明 三元社／『基礎から学ぶ鉛筆デッサン』石川聡 他 エムディエヌコーポレーション／『ドローイングの技法百科』イアン シンプソン グラフィック社／『アートテクニック大百科』レイ スミス 他 美術出版社						
その他の事項								

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
表現	ミュージック	3年次	選択	2	2回	2時間	
科目の概要	音楽は、音を楽しむ活動である。自然の音や生活の音などの身のまわりの音に耳を傾け、感性を働かせて「聴く」ことを通し、いろいろな音（音素材）に気付く。音素材を組み合わせてアンサンブルしたり、音楽の仕組みや楽曲の構成を考えて「オリジナルサウンド」を創ったりするなどの音楽表現活動を展開する。奏でる音にこだわり、創意工夫し、仲間とともに表現活動を楽しむ機会とする。						
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 奏法や材質の違いによる音色や響き、身のまわりの音などに気づき、その音が醸し出す情景や気分を感じ取るなど、豊かな感性を養う。</li> <li>2. 音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する創造的音楽表現の技能を身につける。</li> <li>3. 音楽の仕組みや構成等を理解し、思いや意図をもって表現する意欲や態度を養う。</li> <li>4. 自己のイメージや思いを伝え合ったり他者の意図に共感したりするとともに、他者と表現する過程を通して、主体的に取り組む力、協働する力、コミュニケーションの能力などを身につける。</li> </ol>						
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験範囲
年間学習計画・学習のねらい	「音」への気付きと音楽表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身のまわりの音に耳を傾け、いろいろな「音」を知覚し感受する。音を絵に描いたり言葉や声で表現したりして「音のスケッチ」を行う。発見した音を伝え合うことを通して、感性の違いに気づく機会とする。</li> <li>・音の組み合わせを工夫してリズムアンサンブルを行う。「音」が醸し出す情景や気分を感じ取ったり、仲間とともに心を合わせてアンサンブルする楽しさを味わったりする。</li> </ul>			1	1	後期
	「オリジナルサウンド」の創作と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体の部位、叩き方などの違いによって自分の体からいろいろな音色が出ることに気づき、その音素材の特徴を生かして「オリジナルサウンド」を創る。仲間とイメージを共有して音楽づくりをする過程を通して、音楽のよさや楽しさ、面白さに気づくとともに、世界にひとつだけの「オリジナルサウンド」を仲間とともに創る楽しさを味わう。</li> </ul>			1	1	
評価方法		試験の得点：40%    RP・SC の取組：各 30%					
		RP：プリントやワークシート等を活用し、計画的に取り組むこと					
		SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること					
		試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること					
単位の修得		RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること					
		SC：2 時間出席すること					
		試験：後期試験に合格すること					
参考書等		プリントやワークシート等					
その他の事項							

RP：レポート    SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
心理	じぶんさがしの心理学	2年次	選択	2	2回	2時間	
科目の概要	<p>高校生活を送る上でも、卒業して社会で生きていく上でも、私たちは自分や他人の「心」に向き合う必要がある。そして、心とは何かという、古くて新しい問いに対して、科学的なアプローチをして、心について研究するのが「心理学」である。この科目では、心理学の歴史、現代心理学の成り立ちを学び、「こころとは何か？」の理解を深める。なんとなく普段はわかった気になっている自分の心であっても、客観的に見つめて理解し、コントロールすることは難しい。心理学の知識、体験をもとに、自分の心で起きていることや日々考えていることを客観的に見つめることを図る。</p>						
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学とはどのような学問か、基礎的な事項を理解する。</li> <li>2. 自身の心を見つめ、自己理解・自己発見につなげる。</li> <li>3. 日々の生活の中で、本科目で学んだことを活かすことができる。</li> </ol>						
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	心理学とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学とはどのような学問であるのか、またその応用としての〇〇心理学（スポーツ心理学、犯罪心理学等）を概観し、日々の生活と心理学の関係について知る。心理学の歴史や諸理論、心の発達等を学び、心に関する理解を深める。</li> <li>・近年明らかになりつつある脳と心の関係について理解し、心を客観的に、科学的に捉える視点を持つ。世の中にあふれる「心理学」や「心理学っぽいもの」の背景について理解する。</li> <li>・心理学における性格とは何かについて、血液型占いや性格検査等を例に見ながら、類型論的な考え方と特性論的な考え方とはどのようなものかを知る。</li> </ul>			1	1	後期
	じぶんを見つめる心理学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知行動療法の考え方を学び、自分の考え方を見直し、日常のストレスや落ち込みに対応できる力を向上する。芸術療法では、雑誌を切り抜いて表現するコラージュやキャンドル作りといったような作品作りを通して、自分自身の押しえつけられた心を理解し、開放するきっかけとすることを目指す。</li> <li>・これらの体験を通じて、自身の心を客観的に見つめ、心のクセや傾向に気づき、心理学の知恵を日常生活の中で活かすことができるようにする。</li> </ul>			1	1	
評価方法		試験の得点：60%    RP・SCの取組：各20%					
		RP：プリント冊子等を活用し、計画的に取り組むこと					
		SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること					
		試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること					
単位の修得		RP：締切までに所定のRPを提出し、合格すること					
		SC：2時間出席すること					
		試験：後期試験に合格すること					
参考書等		『はじめて出会う心理学第3版』長谷川寿一ほか著 有斐閣アルマ					
その他の事項							

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
心理	おもいやりの心理学	3年次	選択	2	2回	2時間		
科目の概要	<p>高校生活を送る上でも、卒業して社会で生きていく上でも、私たちは自分や他人の「心」に向き合う必要がある。そして、心とは何かという古くて新しい問いに対して、科学的なアプローチをして、心について研究するのが「心理学」である。他人の心は、自分の心以上に理解することが難しい。また、なんとなく推測してみても、本当にその人が考えていること、感じていることは全く違っていたりする。この科目では、ピアヘルピングやカウンセリングについて学ぶ中で、他者には他者の心的状態があることを理解するとともに、他者の心の内を思いやり、自身の行動やコミュニケーションに反映させる方法を理解し、身につけることを目指す。</p>							
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学の考え方にに基づき他者の心のありようを推測できる。</li> <li>2. カウンセリング理論を理解し、カウンセリングスキルを身につける。</li> <li>3. 他者をおもいやりながら、より良好なコミュニケーションをとることができるようになる。</li> </ol>							
学習内容		学習目標				RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	ピアヘルピング、 カウンセリングの 理論	<p>・「ピア」とは仲間、「ヘルパー」とは人の助けをする人、そして「ヘルピー」とは助けられる人を指す。一方的な助ける・助けられる関係ではなく、日常生活場面で仲間同士が互いに支援するというピアヘルピングの理論や、カウンセリングで必要とされる態度や技法などを学び、他者の心の内を思いやり、寄り添う方法を理解する。</p>				1	1	後期
	ピアヘルピング、 カウンセリングの 実践	<p>・ロールプレイやグループワークを通して、ピアヘルピングやカウンセリングの技法の理解を深め、実践する。例えば、カウンセリングの言語的技法をロールプレイにより練習することは、日常的な家庭や学校でのコミュニケーションを見つめ直すきっかけにもなる。さまざまなグループワークの中で、自分の思いや考えを他者に伝えてみたり、逆にカウンセリングマインドを持って他者の言葉に耳を傾けたりする経験を通して、コミュニケーション力を身につける。</p>				1	1	
評価方法		試験の得点：60%    RP・SC の取組：各 20%						
		RP：プリント冊子等を活用し、計画的に取り組むこと						
		SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること						
		試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること						
単位の修得		RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
		SC：2時間出席すること						
		試験：後期試験に合格すること						
参考書等		『ピアヘルパーワークブック』『ピアヘルパーハンドブック』日本教育カウンセラー協会編 図書文化社／『はじめて出会う心理学第3版』長谷川寿一ほか 著 有斐閣アルマ						
その他の事項								

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
総合的な探究の時間		1 年次	必修	1	1 回	1 時間	
科目の概要	<p>自己の在り方・生き方を考えながら、周囲の人間関係や自然等の事物や事象との関わりを理解し、本学園の教育理念でもある「共生の心」について理解を深め、探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、課題を発見し、解決していくための資質・能力を育成し、「社会を生き抜く力」、「自ら将来を切り拓く力」を培うことを目指す。</p>						
科目の目標	<p>1. 「自己理解」「他者理解」を通じ、人間そのものだけでなく、自然や環境といった人間を取り巻くすべてのものへの関心を高め、本学園の教育の理念である「共生の心」を理解する。</p> <p>2. 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につけ、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解する。</p> <p>3. 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。</p> <p>4. 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>						
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験範囲
年間学習計画・学習のねらい	自己の在り方・生き方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>探求の過程において、自己理解、他者理解、周囲の事象や環境に関する理解を深め、本校の教育理念である「共生の心」を理解する。</li> <li>自己分析を行い、自分とはどのような存在で、どのように生きていくのかを考え、身の回りの諸問題に対して興味を持つ。</li> </ul>			1		前期
	協働	<p>自己と他者の関わりから、協働での学習を通じ、課題の発見と解決を繰り返し、自己肯定感を高め、他者理解を進めるためのグループワークを体験する。グループワークは、体験学習法という教育手法を活用したカウンセリングをベースとしたプログラムを通じ、PDCA サイクルを活用しながら、個人の気づきと集団の気づきの関連性の中で、課題を見つけ出す。課題の発見は、グループのメンバーの個々の違いを認め合い、お互いに尊重し合うことで、相互理解を促進し、お互いの気持ちや本音を開示できる環境を作り出す。その環境のもと、自らゴール設定をし、それに向けての課題解決を進めていく。</p>				1	後期
評価方法		RP・SC の取組：各 50%					
		RP：プリント冊子等を活用し、計画的に取り組むこと					
		SC：年間計画に従い、自己の在り方・生き方について探究活動を行うこと					
単位の修得		RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること					
		SC：所定の時間出席すること					
参考書等							
その他の事項							

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
総合的な探究の時間		2年次	必修	1	1回	1時間	
科目の概要	<p>自己の在り方・生き方を考えながら、周囲の人間関係や自然等の事物や事象との関わりを理解し、本学園の教育理念でもある「共生の心」について理解を深め、探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、課題を発見し、解決していくための資質・能力を育成し、「社会を生き抜く力」、「自ら将来を切り拓く力」を培うことを目指す。</p>						
科目の目標	<p>1. 「自己理解」「他者理解」を通じ、人間そのものだけでなく、自然や環境といった人間を取り巻くすべてのものへの関心を高め、本学園の教育の理念である「共生の心」を理解する。</p> <p>2. 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につけ、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解する。</p> <p>3. 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。</p> <p>4. 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>						
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	自己の在り方・生き方について	<p>・自己理解、他者理解を通じ、「社会を生き抜く力」、「自ら将来を切り拓く力」とは何かを考える。「社会を生き抜く力」、「自ら将来を切り拓く力」とは何かを考えるためのグループワークを通じ、「自分に適した職業とは何か」について考え、自己の進路に関する課題を考える。</p> <p>・PDCA サイクルをもとに1年次の学びを2年次の学びにつなげる振り返りを行い、継続的に学ぶ。</p>			1		前期
	協働	<p>・グループワークでは、欧米で行われているアドベンチャーカウンセリングの考え方をもとに、心と体を使った体験活動をもとに学習を進める。他者理解のために必要な態度も身につけ、他者と自分との関係性「共生」を理解する。他者とのふれあいや支え合い、自然とのふれあい体験を通じ、社会の中で生き抜く力を養い、自らの将来を切り開く体験をする。</p>				1	後期
評価方法		RP・SCの取組：各50%					
		RP：プリント冊子等を活用し、計画的に取り組むこと					
		SC：年間計画に従い、自己の在り方・生き方について探究活動を行うこと					
単位の修得		RP：締切までに所定のRPを提出し、合格すること					
		SC：1時間出席すること					
参考書等							
その他の事項							

RP：レポート SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
総合的な探究の時間		3年次	必修	1	1回	1時間	
科目の概要	<p>自己の在り方・生き方を考えながら、周囲の人間関係や自然等の事物や事象との関わりを理解し、本学園の教育理念でもある「共生の心」について理解を深め、探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、課題を発見し、解決していくための資質・能力を育成し、「社会を生き抜く力」、「自ら将来を切り拓く力」を培うことを目指す。</p>						
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「自己理解」「他者理解」を通じ、人間そのものだけでなく、自然や環境といった人間を取り巻くすべてのものへの関心を高め、本学園の教育の理念である「共生の心」を理解する。</li> <li>2. 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につけ、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解する。</li> <li>3. 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。</li> <li>4. 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</li> </ol>						
学習内容	学習目標				RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	自己の在り方・生き方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会を生き抜く力」、「自ら将来を切り拓く力」とは何か、そのために何が必要かを見出す中で、自己理解を深め、「自分に適した職業とは何か」について考え、自己の進路に関する課題を考える。</li> <li>・進路に関する情報収集や自己表現（プレゼン能力、コミュニケーション力）の分析を行い、自身の生き方の方向性に関わる学びやリサーチを行う。</li> </ul>			1		前期
	協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間のまとめとして、「共生の心」や、「社会を生き抜く力」、「自ら将来を切り拓く力」を培い、<u>他者を理解し、尊重しながら自己の目的・目標に向かって生きていくためのロールプレイやグループワークを通じて、進路意識を醸成する。</u></li> <li><u>進路意識の醸成にあっては、周囲との協働学習により、社会に出るために求められる資質、能力を身につける。</u></li> <li>・自身の体験や学びをプレゼンテーションすることで、自身の個性に磨きをかけ、より自分らしく生きていくための能力を高める。また、課題解決学習により、最後までやり抜く力を養い、豊かな人生を送る基盤を構築する。</li> </ul>				1	後期
評価方法	RP・SCの取組：各50%						
	RP：プリント冊子等を活用し、計画的に取り組むこと						
	SC：年間計画に従い、自己の在り方・生き方について探究活動を行うこと						
単位の修得	RP：締切までに所定のRPを提出し、合格すること						
	SC：1時間出席すること						
参考書等							
その他の事項							

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間	
外国語	英語コミュニケーションⅠ	1年次	必修	3	9回	12時間	
科目の概要	英語学習の特質を踏まえ、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「聞くこと」、「読むこと」の資質・能力を一体的に育成すると共に、その過程を通して「話すこと[やり取り]」の資質・能力を育成する。						
科目の目標	<p>日常的・社会的な話題について、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。</li> <li>必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。</li> <li>基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。</li> <li>基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。</li> <li>基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。</li> </ol>						
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験 範囲
年間学習計画・学習のねらい	Warm Up Pre-Lesson 1,2	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語のアルファベットを使い単語を正確に書き、発音することができる</li> <li>辞書を使って単語を調べることができる</li> <li>Be 動詞の性質と文の作り方を確認する</li> <li>一般動詞の性質と文の作り方を確認する</li> </ul>			1	1 2 3	前期
	Communication1 英文のしくみ 1 Lesson1	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここまで学習したことを基に、自己紹介ができる</li> <li>主語+動詞、主語+動詞+補語、主語+動詞+目的語の文型を理解する</li> <li>世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する(過去形)</li> </ul>			2		
	Lesson2 文法のまとめ 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する(進行形:『be 動詞+動詞の~ing 形』)</li> <li>be 動詞と一般動詞、否定文と疑問文、過去形、進行形を用いた文の形・意味・用法を理解する</li> </ul>			3		
	Lesson3 Communication2	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える(助動詞: can, will)</li> <li>道案内の場面においてよく使われる表現を用いて、英語で道案内をしたり、道順を尋ねたりすることができる</li> </ul>			4		
	Let's Listen 1 Lesson4 Lesson5 Let's Listen2	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面における対話を聞き、概要を理解しメモを完成させる</li> <li>海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力を学習する(to 不定詞:『to+動詞の原形』)</li> <li>高校のユニークな部活動を通して、今好きなことと将来の夢について考える(動名詞:『動詞の-ing 形』)</li> <li>フリーマーケットで買い物をする場面における対話を聞き、概要を理解し、よく使われる表現を聞き取る</li> </ul>			4 5 6		



年間学習計画・学習のねらい	英文のしくみ2 文法のまとめ2 Reading1 Extra Target2	・主語+動詞+目的語+目的語 ・助動詞、to 不定詞、動名詞、接続詞 ・3つのショートストーリーを読み、それぞれの場面や心情を読み取ってユーモアを理解する ・最近見たり聞いたりしたことについて表現する (知覚動詞：『～が・・・するのを見た』)	5	7	後期
	Lesson6	・江戸時代の浮世絵師、歌川国芳のスピーチを通して、浮世絵と現代マンガの関連性について考える(受け身：『be 動詞+過去分詞』)	6		
	Lesson7	・アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える(比較表現：『-er, the-est, as+原級+as』)	7	8	
	Lesson8	・ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性を考える(現在完了形：『have[has]+過去分詞』)	8		
	Communication3 英文のしくみ3 文法のまとめ3	・電車の乗り換え案内の場面においてよく使われる表現を用いて、英語で尋ねたり案内したりする ・主語+動詞+目的語+補語 ・受け身、比較表現、完了形	9	9 10	
	Lesson9	・プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する(名詞を後ろから説明する分詞)			
	Lesson10	・第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄 出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する (関係代名詞：『who, which』)			
Reading2 Extra Target3 文法のまとめ4	・家ごと大竜巻に飛ばされて不思議なオズの国に降り立った ドロシーと愛犬のトトが、自分の家にたどりつくまでの冒険物語を読み、場面や登場人物の心情を読み取る ・仮定法過去：『If+過去形の文, I would …』 ・名詞を後ろから説明する分詞、関係詞、句読法		11 12		
評価方法	試験の得点：60% RP・SCの取組：各20%				
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと				
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること				
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること				
単位の修得	RP：締切までに所定のRPを提出し、合格すること				
	SC：所定の時間出席すること				
	試験：前・後期試験の両方に合格すること				
使用教科書	教科書：東京書籍「All Aboard! English Communication I」(C I 701)				
その他の事項	英語を理解するために必ず辞書を使用するようにしてください。 また、自分に合った学習参考書を購入することをお勧めします。 手元にあると、より理解が深まります。				

RP：レポート SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間			
外国語	英語コミュニケーションⅡ	2年次	選択	4	12回	16時間			
科目の概要	英語学習の特質を踏まえ、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「聞くこと」、「読むこと」の資質・能力を一体的に育成すると共に、その過程を通して「話すこと[やり取り]」の資質・能力を育成する。								
科目の目標	<p>日常的・社会的な話題について、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握し、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。</li> <li>必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握し、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。</li> <li>多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、論理性に注意して詳しく話して伝え合うことができる。</li> <li>多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができる。</li> <li>多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができる。</li> </ol>								
学習内容		学習目標				RP 回	SC 回	試験 範囲	
年間学習計画・学習のねらい	未定	未定				1 2 3 4 5 6	1	前期	
							2		
							3		
							4		
							5		
							6		
							7		
							8		
	未定	未定					7 8 9 10 11 12	9	後期
								10	
								11	
								12	
								13	
								14	
								15	
								16	
評価方法	試験の得点：未定    RP・SC の取組：未定								
	R P：未定								
	S C：未定								
	試験：未定								

単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること
	SC：所定の時間出席すること
	試験：前・後期試験の両方に合格すること
使用教科書	教科書：未定
その他の事項	

RP：レポート      SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
外国語	英語コミュニケーションⅢ	3年次	選択	4	12回	16時間		
科目の概要	英語学習の特質を踏まえ、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「聞くこと」、「読むこと」の資質・能力を一体的に育成すると共に、その過程を通して「話すこと[やり取り]」の資質・能力を育成する。							
科目の目標	<p>日常的・社会的な話題について、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握し、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。</li> <li>必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握し、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。</li> <li>多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させ、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができる。</li> <li>多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができる。</li> <li>多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落からなる文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。</li> </ol>							
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験 範囲	
年間学習計画・学習のねらい	未定	未定				1	前期	
					1	2		
					2	3		
					3	4		
					4	5		
					5	6		
					6	7		
					6	8		
	未定	未定				7	9	後期
						8	10	
						9	11	
						10	12	
						11	13	
						11	14	
						12	15	
						12	16	
評価方法	試験の得点：未定 RP・SC の取組：未定							
	R P：未定							
	S C：未定							
	試験：未定							
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること							
	SC：所定の時間出席すること							

	試験：前・後期試験の両方に合格すること
使用教科書	教科書：未定
その他の事項	

RP：レポート      SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
外国語	論理・表現 I	1 年次	選択	2	6 回	8 時間		
科目の概要	英語学習の特質を踏まえ、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の資質・能力を一体的に育成すると共に、その過程を通して「書くこと」の資質・能力を育成する。							
科目の目標	<p>日常的な話題や社会的な話題について、基本的な語句や文を用いて、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文脈にあった質問や答えを続けることで、情報や考え、気持ちなどを、やり取りを通して伝え合うことができる。</li> <li>2. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、話して伝えることができる。</li> <li>3. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、書いて伝えることができる。</li> </ol>							
学習内容		学習目標				RP 回	SC 回	試験範囲
年間学習計画・学習のねらい	英語で表現するには Unit 1 Lesson 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主語、動詞、文構造、疑問文と否定文、日本語の言い換え、品詞、句と節のしくみを理解する</li> <li>・留学先での初めての食事の場面で「褒める、勧める、断る」などの「話すこと[やり取り]」を「未来表現、可算名詞・不可算名詞、受動態」の文法項目を用いて行うことができる</li> </ul>				1		前期
	Unit 1 Lesson 2 Unit 1 Lesson 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道に迷った・道を案内する場面で「提案する、依頼する、道順を説明する」などの「話すこと[やり取り]」を「Could you …? や命令文」などの表現を用いて行うことができる</li> <li>・身近な人を紹介するスピーチで「身近な人を紹介する、注意を引く」などの「話すこと[発表]」を「現在完了形と過去形、to 不定詞と動名詞」の文法項目を用いて行うことができる</li> </ul>				2	1	
	Unit 1 Lesson 4 Unit 1 Lesson 5 Unit 1 Lesson 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調をめぐりやり取りの場面で「体調を伝える、体調を尋ねる、指示・アドバイスをする」などの「話すこと[やり取り]」を「冠詞・人称代名詞、should had better」文法項目を用いて行うことができる</li> <li>・買い物の場面で「描写する、相づちを打つ」などの「話すこと[やり取り]」を「現在形と現在進行形、現在完了形と過去形」の文法項目を用いて行うことができる</li> <li>・行ってみたい場所のライティングで「希望を述べる、理由を述べる」などの「書くこと」を「後置修飾、to 不定詞と動名詞」の文法項目を用いて行うことができる</li> </ul>				3	2	
	Unit 1 Lesson 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントに誘ったり、誘われたりする場面で「誘う、誘いを受ける、誘いを断る」などの「話すこと[やり取り]」を「未来表現」の文法項目を用いて行うことができる</li> </ul>					3	
	Unit 1 Lesson 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーとやり取りをする場面で「状況を説明する、手助けを申し出る、助言・提案する、お礼や感謝を伝える」などの「話すこと[やり取り]」を「how や why を用いた文」の文法項目を用いて行うことができる</li> </ul>					4	

年間学習計画・学習のねらい	Unit 1 Lesson 9 Unit 1 Lesson 10 Unit 1 Lesson 11 Unit 1 Lesson 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のお気に入りを紹介するスピーチの場面で「映画や本のあらすじを要約したり、登場人物などを紹介したりする、感想や批評を述べる」などの「話すこと[発表]」を「前置修飾、後置修飾」などの表現を用いて行うことができる</li> <li>待ち合わせに遅刻したときの場面で「相手に謝る、相手を許す、相手を励ます」などの「話すこと[やり取り]」を「使役動詞、to 不定詞と動名詞」の文法項目を用いて行うことができる</li> <li>家庭内で身近な社会問題をディスカッションする場面で「共感を述べる、残念な気持ちを述べる、解決策を提案する」など「話すこと[やり取り]」を「仮定法」の文法項目を用いて行うことができる</li> </ul>	4	5	後期
	Unit 2 Lesson 1 Unit 2 Lesson 2 Unit 2 Lesson 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子書籍と紙の書籍をクラス全体でチョークディベートをする場面で「理由を述べる、例を挙げる」、「相手の意見に反駁する、相手の意見を引用する」などの「話すこと[やり取り]」を「to 不定詞と動名詞、否定」の文法項目を用いて行うことができる</li> <li>自らの子どものころの経験のスピーチで「できごとをいきいきと描写する、経験からアドバイスをする」などの「話すこと[発表]」を「後置修飾、受動態」の文法項目を用いて行うことができる</li> </ul>	5	6	
	Unit 2 Lesson 4 Unit 2 Lesson 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーリングのルールや手順を紹介するスピーチで「順序立てて、聞き手の知識に合わせて説明する」などの「話すこと[発表]」を「現在完了形と過去形」の文法項目を用いて行うことができる</li> <li>日本の文化をPRするスピーチで「事実と意見を区別して述べる、文化や習慣を説明する」などの「話すこと[発表]」を「and, but, so」などの語を用いて行うことができる</li> </ul>	6	6	
	Unit 2 Lesson 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>兄弟姉妹とのルームシェアのライティングで「利点と欠点を述べる、話題を発展させる、話題を変える」などの「書くこと」を「名詞と無生物主語」を用いて行うことができる</li> </ul>		7	
	Unit 2 Lesson 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国映画の見方のライティングで「自分の主張について理由を説明する、理由を要約してまとめる」などの「書くこと」を「分詞構文」の文法項目を用いて行うことができる</li> </ul>		8	
	評価方法	試験の得点：60%      RP・SC の取組：各 20%			
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと				
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること				
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること				
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること				
	SC：所定の時間出席すること				
	試験：前・後期試験の両方に合格すること				
使用教科書	教科書：東京書籍「NEW FAVORITE English Logic and Expression I」(論 I 701)				
その他の事項	英語を理解するために必ず辞書を使用するようにしてください。 また、自分に合った学習参考書を購入することをお勧めします。 手元にあると、より理解が深まります。				

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
外国語	論理・表現Ⅱ	2年次	選択	2	6回	8時間		
科目の概要	英語学習の特質を踏まえ、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の資質・能力を一体的に育成すると共に、その過程を通して「書くこと」の資質・能力を育成する。							
科目の目標	<p>日常的な話題や社会的な話題について、多様な語句や文を用いて、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したり、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができる。</li> <li>2. 情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができる。</li> <li>3. 情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝え、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができる。</li> </ol>							
学習内容		学習目標			RP 回	SC 回	試験 範囲	
年間学習計画・学習のねらい	未定	未定			1	1	前期	
					2	2		
					3	3		
					4	4		
	未定	未定				4	5	後期
						5	6	
						6	7	
							8	
評価方法		試験の得点：未定    RP・SC の取組：未定						
		R P：未定						
		S C：未定						
		試験：未定						
単位の修得		RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること						
		SC：所定の時間出席すること						
		試験：前・後期試験の両方に合格すること						
使用教科書		教科書：未定						
その他の事項								

RP：レポート    SC：スクーリング



教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP回数	SC時間	
家庭	家庭基礎	1年次	必修	2	4回	4時間	
科目の概要	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。						
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人の一生と家族・家庭や福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図ると共に、それらに係る技能を身に付ける。</li> <li>2. 家庭、地域や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</li> <li>3. 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとすると共に、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</li> </ol>						
学習内容		学習目標			RP回	SC回	試験範囲
年間学習計画・学習のねらい	生涯を見通す 人生をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解し、歩みたい人生の目標を描く</li> <li>・様々な生き方について理解すると共に、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する</li> <li>・仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結び付きを理解する</li> </ul>			1	1	前期
	子どもと共に育つ 高齢社会を共に生きる 共に生き、共に支える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと関わり、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する</li> <li>・現代の子育て環境の変化や課題について理解する</li> <li>・高齢者を支える家族や地域による支援、社会の仕組みや課題について考える</li> <li>・家族・家庭生活を支える福祉について理解する</li> </ul>			2	2	
	食生活をつくる 衣生活をつくる 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する</li> <li>・被服の多様な機能や特徴、社会生活を営む上での被服の役割を理解する</li> <li>・快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する</li> </ul>			3	3	後期
	経済生活を営む これからの生活を創造する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する</li> <li>・消費者の権利と責任、消費者保護制度を理解する</li> <li>・各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようにする</li> <li>・持続可能な社会を構築していくために、何ができるか考えて実践しようとする</li> </ul>			4	4	

評価方法	試験の得点：60%      RP・SC の取組：各 20%
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること
	SC：所定の時間出席すること
	試験：前・後期試験の両方に合格すること
使用教科書	教科書：東京書籍「家庭基礎」(家基 701)
その他の事項	

RP：レポート      SC：スクーリング

教科名	科目名	対象年次	履修条件	単位数	RP 回数	SC 時間		
情報	情報 I	3 年次	必修	2	4 回	4 時間		
科目の概要	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。							
科目の目標	1. 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得すると共に、情報社会と人との関わりの理解を深める。 2. 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 3. 情報と情報技術を適切に活用し、情報社会に主体的に参画する態度を養う。							
学習内容		学習目標				RP 回	SC 回	試験範囲
年間学習計画・学習のねらい	情報とメディアの特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の特性から、情報とは何か理解する</li> <li>様々なメディアの特性を理解し、表現メディアの違いによるメリットとデメリットを理解する</li> </ul>				1	1	前期
	情報モラル 個人情報の流出 傷つかない傷つけないために	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報社会で生活していくための情報モラルを理解する</li> <li>情報社会の安全を守るための、法規や制度及び個人の責任について理解する</li> <li>個人情報とはどのようなものか理解する</li> <li>SNS を通して個人情報が流出・特定されるしくみを学習し、SNS 等の不適切な使い方による問題を理解する</li> <li>ソーシャルエンジニアリングにより不正に情報が盗まれることを理解する</li> </ul>						
	著作権 文書処理ソフトウェアの操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>著作権と引用の仕方を理解する</li> <li>文書処理ソフトウェアについて、書式の設定や配置の変更など、基本的な操作を理解する</li> <li>文書処理ソフトウェアで図、表、画像を利用する方法やディレクトリやファイルの操作について理解する</li> </ul>				2	2	前期
	情報デザイン 学校 Web サイトの階層構造調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報デザインとは何か学習し、情報デザインの方法である抽象化、可視化、構造化を理解する</li> <li>学校の Web サイトがどのような階層構造なのか理解する</li> <li>文書処理ソフトウェアを活用して、情報デザインの考え方を基に文書を作成する</li> </ul>						
	情報技術の発展 情報化と私たちの生活の変化 よりよい情報社会へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>画像処理や電子商取引などの新しい情報技術について理解する</li> <li>人工知能やロボットなど情報技術と生活の変化を理解する</li> <li>情報化による健康への影響などの問題について理解する</li> </ul>				4		後期
	コミュニケーション 手段の変化 ネットコミュニケーションの特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアとコミュニケーションの変遷について理解する</li> <li>メディアの特性について理解する</li> <li>近年のソーシャルメディアによる人のつながりを理解する</li> <li>ネットコミュニケーションの特徴である記録性や匿名性を理解する</li> </ul>						

年間学習計画・学習のねらい	表計算ソフトウェアの操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>表計算ソフトウェアの書式の設定や配置の変更など、基本的な操作を理解する</li> <li>表計算ソフトウェアでの数式や関数の利用を理解する</li> <li>ディレクトリやファイルの操作について理解する</li> </ul>	3	後期
	ネットワークとインターネット 情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信ネットワークとは何か理解する</li> <li>LAN と WAN の違いを理解する</li> <li>プロトコルとその1つとして TCP/IP、ネットワークを構成するハードウェア、サーバの役割、インターネットでの IP アドレスと DNS の役割等を理解する</li> <li>認証後に使えるようになるサービスには、どのようなものがあるか理解する</li> <li>情報セキュリティの機密性、完全性、可用性を理解する</li> <li>情報セキュリティを確保するための方法・技術について理解する</li> </ul>	4	
評価方法	試験の得点：50% RP の取組：20% SC の取組：30%			
	RP：教科書等を活用し、計画的に取り組むこと			
	SC：年間計画に従い、予習を行い疑問点の解決に努めること			
	試験：必要な基礎知識を習得し、試験に反映させていること			
単位の修得	RP：締切までに所定の RP を提出し、合格すること			
	SC：所定の時間出席すること			
	試験：前・後期試験の両方に合格すること			
使用教科書	教科書：東京書籍「新編情報 I」(情 I701)			
その他の事項				

RP：レポート SC：スクーリング